

わかっちゃいるけどヤメラレナイ - 資本主義の矛盾とは

09.6.18

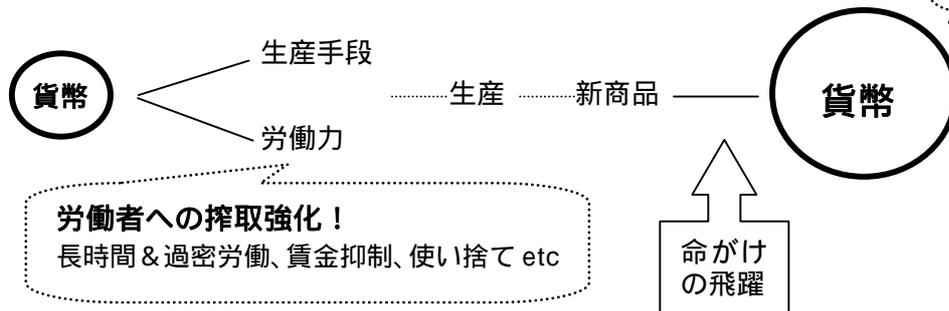
岡山県労働者学習協会 長久啓太

ブログ「勉客商売」 <http://benkaku.typepad.jp/blog/>

一。前回までのおさらい

資本が運動する目的は、より大きい貨幣（価値）の獲得にある

剰余価値の
獲得が資本
の目的！

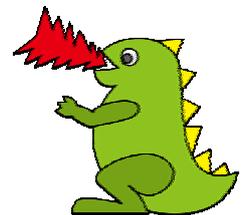


「資本主義的生産過程を推進する動機とそれを規定する目的とは、できるだけ大きな資本の自己増殖、すなわちできるだけ大きな剰余価値の生産、したがって資本家による労働力のできるだけ大きな搾取である」

(『資本論』第11章「協業」576P)

- * どんなに社会が必要としているモノでも、「採算」がとれなければ、商品化できない。
- * 逆に、社会にとって不必要なモノでも、「もうかる」となれば、つくって売りまくる。また、まったくモノをつくりださない金融経済に利潤獲得を求めめることも起こる。
- * 「資本の論理」(利潤第一主義)がそのまま、ストレートに出てくれば、それは野蛮な資本主義、五木寛之さん風にいえば、「恐竜資本主義」となる。
- * 新自由主義路線(市場万能主義)は、野蛮な恐竜をあらゆる分野に解き放った。

「大洪水よ、わが亡きあとに来たれ！」これがすべての資本家およびすべての資本家国民のスローガンである。それゆえ、資本は、社会によって強制されるのでなければ、労働者の健康と寿命に対し、なんらの顧慮も払わない。・・・自由競争は、資本主義的生産の内在的な諸法則を、個々の資本家にたいして外的な強制法則として通させるのである」(『資本論』第8章464P)



シホンザウルス(嘘)

- * 野蛮な資本を野放しにしておくと、さまざまな「病気」「災害」が生まれてくるので、「社会的な規制」が重要となる。社会的バリケードを構築する必要がある。
- * ただし、高く堅固な社会的バリケードを築いても、「利潤第一主義」がなくなるわけではない。

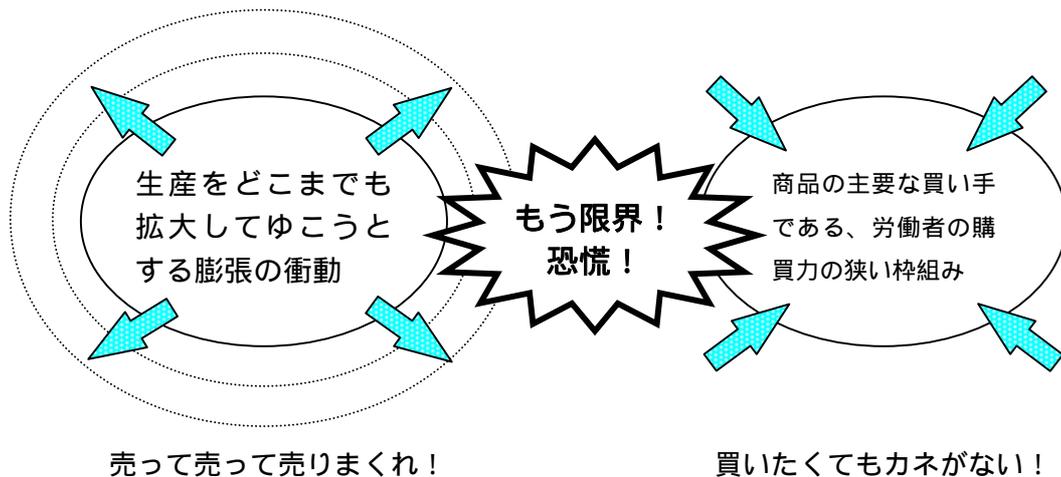
ルールある経済社会をつくることの意義は、第7講義で詳しく考えます。

二。資本主義の矛盾のあらわれ

【ポイント】資本主義は、自らの体質そのものからくる「病」にたいして、延命薬・緩和薬は次々と開発する能力（「自己調整能力」）をもつが、「病」を根治する、もっともいい薬が飲めない。

1。生産と消費の矛盾 - 周期的な恐慌

生産力の無制限的發展－「生産のための生産」「蓄積のための蓄積」
しかし、「買う」ほうがそれに追いつかない



モノを買う先は、4つしかない

- * 個人、企業（設備投資）、国・自治体、外国（輸出）
- * 日本の場合、モノを買う力のうち、55%は「個人消費」。
- * 搾取強化（賃金抑制、労働者使い捨て）をすれば、個人消費は冷え込む。
- * 日本の大企業の労働分配率の低さ（資料）

社会の大多数をなし、社会全体をささえる主体である労働者階級を、「貧困」と「労働苦」にしばりつけつけ、それが資本の生存条件となっているところに、資本主義的生産様式の致命的な問題がある。

資本主義の「持病」である恐慌は、周期的に発生してきた

- * 1825（イギリス）、1837～38（イギリス）、1847（イギリス）、1857（世界恐慌はここから始まる）、1866、1878、1882、1890、1900、1907、1920、1929（大恐慌）、1937、1957、1974、1980、1991、2000年前後、2008年以後
- * 国家が経済へ介入するという緩和策（ケインズ路線）も、恐慌をなくすことはできなかった。
- * 1929年の大恐慌が資本主義世界をおそったとき、流行った話
子ども「なぜストーブをたかないの」
母「お父さんが首になって、石炭を買えないからよ」
子ども「なぜ、首になったの」
母「石炭が売れないで、炭鉱がつぶれたからよ」

2. 貧困の拡大と格差の極端化

貧富の格差の拡大

- * 世界の人口のうち、富裕層を形成する 20%と、貧困層を形成する 20%とを比較した場合、収入の格差は、1960 年で「30対1」だったものが、1999 年には「74対1」と、2倍以上に広がっている（2003 年、ILO事務局長報告）
- * 世界の人口の約半分に相当する 30 億人は、1日あたり 2ドル以下での生活を強いられ、さらにそのうちの 10 億人は、1日 1ドル以下で生計を立てざるをえない状況（同報告）

世界的な規模での失業者の増大《国際労働機関（ILO）報告》

- * 1997 年 1 億 4000 万人 2000 年 1 億 6000 万人 2003 年 1 億 8000 万人。
- * 2009 年には、はじめて 2 億人を突破する見通し。最悪で 2 億 3 千万人と予想。
- * 失業者（相対的過剰人口）は、絶対的に資本に従属させられる

「過剰労働者人口が、蓄積の—または資本主義の基礎上的富の発展の—必然的な産物であるとすれば、この過剰人口は逆に、資本主義的蓄積の槓杆（こうかん〔てこ〕）いやそれどころか資本主義的生産様式の実存条件となる。それは、あたかも資本が自分自身の費用によって飼育でもしたかのようにまったく絶対的に資本に所属する、自由に処分できる、産業予備軍を形成する。それは、資本の変転する増殖欲求のために、現実的人口増加の制限にかかわりなくいつでも使える搾取可能な人間材料をつくり出す」（『資本論』第 23 章、1087P）

巨大資本家への富の集中、金融経済の膨張

- * 日本の大企業（資本金 10 億円以上）の内部留保
 - ・ 1973 年 13 兆円 1988 年 74 兆円 2000 年 172 兆円 2007 年 228 兆円
- * 1980 年には世界の GDP 総額(10.1 兆ドル)と世界の金融資産総額(10.9 兆ドル)は、ほぼ同じ規模であったが、2006 年には、前者の 48.3 兆ドルに対して、後者は 167 兆ドル(約 3.5 倍)に増加した。デリバティブ取引(注)の「想定元本」(600 兆ドル)を含めると約 15 倍に達している。

(注)金融派生商品を用いた取引のこと。株式、金利、為替などの金融商品を用いてする、先渡取引や先物取引、オプション取引、スワップ取引など、金融商品自体を取引するのではなくその売買権利や交換権を取引することから、“派生”という意味の英単語 (Derivative) でこう呼ばれる

3. 発展途上国に自立的発展の道を提供できない

マダガスカルを例に

- * 世界でもっとも貧しい重債務貧困国のひとつ。総人口 1900 万人のうち、67.5%(約 1500 万人)が最貧困層を形成している。
- * マダガスカルは、資源が豊富な国で、近年、サファイヤ、ニッケル、コバルト、チタンなどの埋蔵が発見されている。ところが、それを採掘する権利は、海外の巨大資本が買っていく。マダガスカル政府や、国民にはわずかな“おこぼれ”しか残らないという構造ができあがってしまっている。

- * ちなみに…。高校と大学の学費を段階的に無償化することを定めた国際人権規約のA規約（社会権規約）第13条を留保していた日本など3か国のうち、ルワンダが08年12月に留保を撤回。これで、同条項を留保している国は、条約加盟国160か国中（09年5月現在）、日本とマダガスカルの2か国だけとなった。

南北問題を資本主義は解決できるのか

- * サハラ砂漠以南のアフリカ諸国は、以前にも増して資本主義先進国の生産活動に必要な不可欠な原料供給国としての地位に留まり続けている。
- * 約2億1800万人の子どもたち（5 - 17歳、世界中の子どもの7人に1人）が児童労働をしている（うち農業が7割）。特に多いのがサハラ以南のアフリカの国。

「アフリカで輸出の75%以上を石油以外の1次産品に依存している国は、17か国におよぶ。コーヒー、ココア、紅茶などの商品作物は、生産から流通、価格決定権まで巨大企業に押さえ込まれている。

…コーヒー焙煎・製造の多国籍企業は巨額の利益を上げている。ウガンダの例では、農家が1キロあたり0.14ドルで卸したコーヒー豆が、英国の小売店では26.4ドルにもなっている（OXFAM調べ、2001～2002年）。190倍という巨大な差である」（『子どもたちのアフリカ』石弘之、岩波書店、2005年）

【横道話】

あなたが一杯330円のトールサイズコーヒーを買いました。そのお金は、どれくらい生産者に入るでしょうか（映画『おいしいコーヒーの真実』HPより）。

小売業者・輸入業者（ 円）

輸出業者、地元の貿易会社（ 円）

コーヒー農家（ 円）



4. 資本主義に、人類の未来をたくせるのか？ - 地球温暖化

地球大気は、私たちの「生命維持装置」

- * 紫外線をさえぎるオゾン層
- * 地球が、二酸化炭素の量が少ないのはなぜか（地球は0.04%、金星96.5%、火星95.3%）
- * 35億年前に海のなかで誕生した生命が、複雑な進化の過程をへて、二酸化炭素を吸収して酸素を出す生命体（つまり光合成の作用をもつ）を生みだした。この生命活動（光合成）によって、二酸化炭素が長い時間をかけて吸収され、4億年前に、「地上で生命が活動できる」大気に改造されていった。約30億年かかっている。
- * 産業革命以後の、猛烈な化石燃料（石炭・石油など）の消費が、大気中の二酸化炭素の割合を急増加させている。30億年かけてつくられた「生命維持装置」を、わずか数百年の経済活動で壊す事態となっている（別紙資料参照）。
- * 二酸化炭素は、温室効果（太陽の熱を地球のなかに留まらせる性質）をもち、大気中の平均気温が上昇している。海面上昇、大規模自然災害の増加、農作物の不作、水不足など深刻な影響が広がりつつある。今後、平均気温の上昇を2以下に抑えることが必要になってくる。

世界的な取り組みは急ピッチで動いている

* 国連組織 I P C C (気候変動に関する政府間パネル) は、どうしても達成すべき温暖化ガスの削減目標として、2020 年までに、先進国の排出量を 1990 年比 25 ~ 40% 減らし、2050 年までに世界全体の排出量を 50% 以上減らす (先進国では 80% 以上の削減が必要) ことを指摘。

* 真剣な対応 (排出削減のための社会的規制) がすすむ欧州

* プッシュ路線からの明確な転換をはかりつつある米国

地球の未来より、経済界の利益を優先 - 日本政府の対応

* 中間目標として、1990 年比 8 % の減 (2020 年) を先日発表

* 「大洪水よ、わが亡きあとに来たれ！」 - まさに資本の倫理が優先

* 日本の二酸化炭素排出量の半分は、150 の大規模排出事業所 (発電所、製油所、セメント、化学工業、鉄鋼など) から出ている (気候ネットワーク調べ)

* 日本の排出先の 8 割は産業界。大型排出先がはっきりしているのに、そこに規制をかけず、「自主努力」に任せているのが日本の現状。

* 再生可能 (自然) エネルギーへの転換もはばまれている。その 1 つ、太陽光発電は、国内の可能な未利用地と建物の屋根の 3 分の 1 に設置すれば、日本で消費される全てのエネルギーを電力として供給できるほど、国内外で発展性をもつ実用技術。すすまない原因は、自然エネルギーでつくる電力を、電力会社に固定価格で買い取らせる制度を、電力業界に反対されて実施しないため。

地球の未来より...

大企業の企業利益が優先!



早急に、社会的な規制が必要な問題でもある。

そしてより根本的には、利潤第一主義が行動原理の資本主義に、人類の未来はたくせるのか? という問題。

5. 強い「反作用」を生み出す (次回、次々回で詳しくやります)

資本の野蛮な振る舞いにたいして

* 人びとのたたかい、社会による資本の規制を生み出す

そうした「反作用」が、資本主義を変革する主体の形成を成熟させていく

次回 (6 / 25) は、「労働組合の役割と視点 - その過去・現在・未来」です。